

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株)北海道福祉事業協会	代表者	佐野 佳代	法人・事業所の特徴	個々の利用者の生活の場を出来る限り以前の生活のまま出来る様、通い・訪問に力を入れて日々支援している。また、通い・泊まり・訪問は介護者不在などの緊急時には随時対応できるよう考えている。職員・利用者共にアットホームな雰囲気となっている。
事業所名	『さくら丘』手稲	管理者	八戸 翼		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	5人	0人	1人	1人	0人	2人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有は出来ているが、プランと支援のつながりが出来ていない職員が多いため、毎日の支援を行う前に、または支援を行う毎にプランの確認を意識づける仕組みの構築を行っていく。 経過記録の記載方法を再検討し、気付き、対応、結果を結びつける記録を目標に行っていく。 社外研修への参加意欲の向上と研修情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 経過記録記載のファイルを個別の物へ変更し、最前面にプランを挟み込み、経過確認する際に見れるよう改善した。それにより意識づける仕組みとなった。 経過記録の記載方法として、記載した内容によって色分けしてラインを引くようにした。結果、以前よりは見やすいものとなったがまだ改善は必要と思われる。 	調査は細かいもの程いい加減になる。単純なものほど正確。課題を明確にするべき。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の利用者の目標を、職員に意識づける為、職員が確認できる一覧を作成し、日々確認しやすい環境作りを行っていく。また、小さな「～したい」にも敏感に反応していけるよう、経過記録の記載をより細やかに記載していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	なし	なし	利用者24名の期間が続いていることが、良い事業所とわかる。心地が良い。狭いが密着度が高く、ただ広いところに大人数がいるよりはよい。人が多いとまとまらないことがあるので、1日12名の定員というのもよいと思う。	
C. 事業所と地域のかかわり	今後事業所からも地域に向けてイベント等の提案をさせていただき、関わりを多く持てる様働きかける。	回数は多くはなかったが、町内会行事の七夕の会や夏祭りに参加。より多くの機会が出来ると尚良いと思われる。	町内会の夏祭りに参加したことで、町内に福祉の事業所があるという評価がありとてもよい。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	なし	なし	運営推進会議内でも、地域の資源の質問などがあり、夏場は外出に積極的なイメージがある。	

E. 運営推進会議を活かした取組み	なし	なし	なし	
F. 事業所の防災・災害対策	事業所近隣の連絡網を作成していく。	今回は、連絡網の作成は達成できなかった。次回の目標に引き続き記載する。	なし	町内会と相談をしながら、防災対策の検討を行う。